

レプトスピラ症に気をつけよう

レプトスピラ症の原因は病原性レプトスピラという細菌で、電子顕微鏡で観察すると図1のようならせん状の形態をしています。

この菌は、ネズミやマングースなど野生動物の腎臓に潜っており、尿中に菌が排出されます。ヒトは、これらの動物の尿に直接接触したり、尿で汚染された土壌や水と接触する際に、皮膚の傷、鼻や目の粘膜を通して感染しますが、ヒト→ヒトへの感染はほとんどありません。

ヒトがこの菌に感染すると、1～2週間後に頭痛、発熱（38℃以上）、筋肉痛、目の充血などの症状が出ます。重症になると、黄疸や腎障害などの症状が現れ、治療しないと死に至る場合もあります。治療には、ペニシリンやストレプトマイシンなどの抗生物質が有効とされています。

感染の機会には、川での遊泳、農作業、カヤックなどのレジャー、土木作業、ネズミとの接触などがあり、沖縄県は全国と比べると患者の発生が多い地域です。過去25年間における県内の患者発生状況を見ると、毎年6月～10月にかけて多く、特に本島北部と八重山地域は8月と9月に川での感染が多いため注意が必要です。（図2,3）

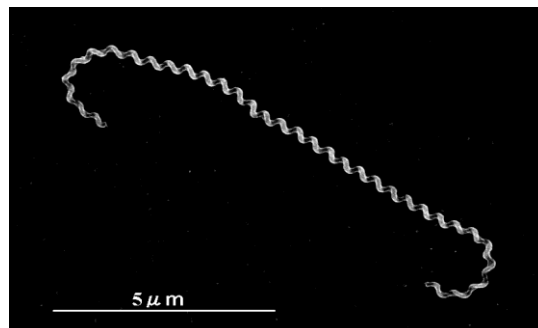


図1 レプトスピラ電子顕微鏡写真
（愛知医科大学 角坂照貴先生提供）

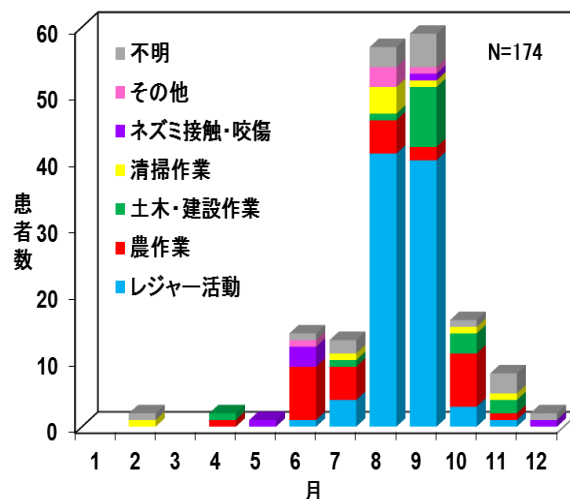


図2 月別患者発生数と感染機会 (1988～2013)

予防のポイント

- 1 水田、山林で作業をする場合は、長靴や手袋を使用し、土や水との直接的な接触をさける。
- 2 皮膚に傷がある場合は、川で遊ばない。
- 3 捕獲したネズミなど、素手での野生動物との接触をさける。
- 4 川遊びをした後や、畑、水田、山林などで作業した後、3～14日以内に発熱、頭痛、筋肉痛などの症状がでたら、すぐに受診する。

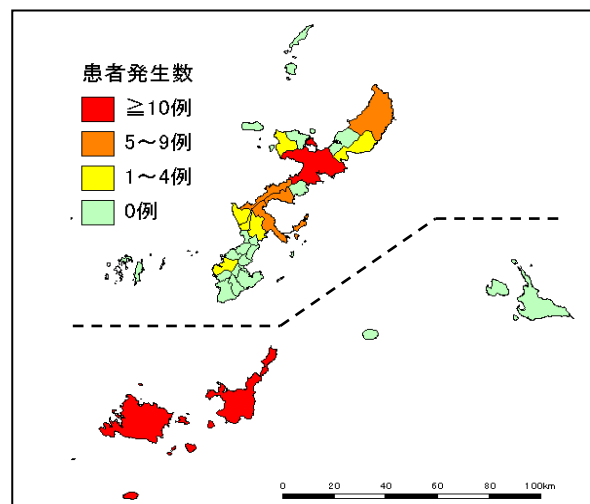


図3 市町村別患者発生状況 (1988～2013)

もっと詳しく知りたい方は・・・

※ レプトスピラ症 国立感染症研究所感染症疫学センター

URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/531-leptospirosis.html>